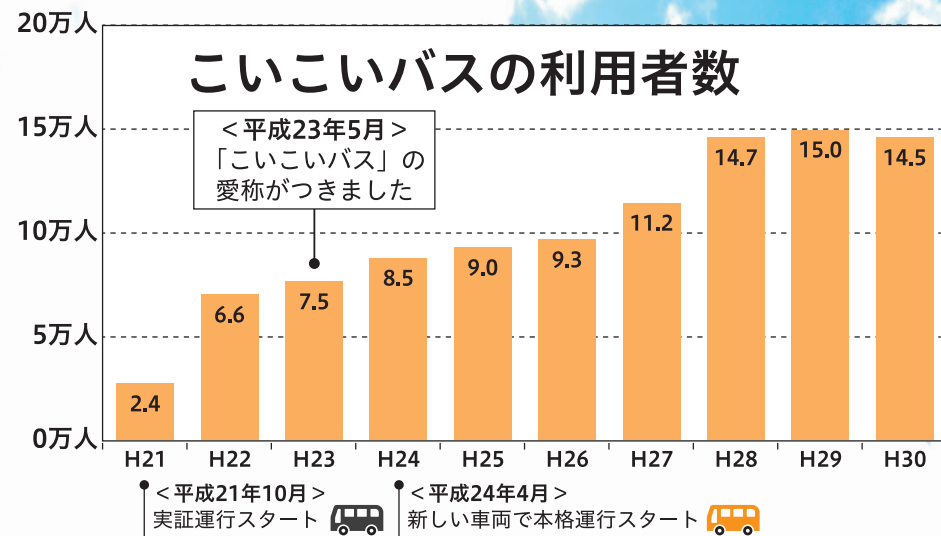




利用者数100万人

こいこいバス(運行開始当初は「おたけ幹線バス」)は平成21年10月26日に実証運行を開始し、平成24年4月1日に本格運行に移行しました。今年の10月26日で運行開始から10周年を迎えます。
また、利用者数は今年の5月に100万人を突破しました。

こいこい10年・100万人 持続可能な公共交通を目指して ハッピーバスデー Happy Bus Day 10th Anniversary

こいこいバス 玖波駅 問い合わせ
自治振興課 ☎92142

こいこいバス導入の背景

市では高齢化が急速に進んでいる一方で、将来的には公共交通を必要とする方が多くなると考えられます。買い物や通院などの日常生活を送るため、便利で使いやすい公共交通を整備することで、大竹のまちがにぎわい、元気になることを目指しました。

こいこいバスの整備を進めるにあたり、「大竹市の公共交通をより便利にしたい」という思いをもった市民の方を幹線交通検討分科会の委員として公募しました。

「みんなで理解し、みんなで決定する」ことで事業への愛着が生まれることから、分科会委員が自ら街宣活動やバス停の設置交渉などに、積極的に取り組んできました。

また、運行ルート、運行時間、運賃などを検討してきました。



▲こいこいバスのペーパークラフトを作りました。



①ペンギンを優しくなでてあげます。②フラダンス体験をした曾我美咲ちゃん(小方小1)は「踊りが好きなのでやってみたら楽しかった」。③白バイにまたがって記念撮影。かっこいい。④手作りの残暑見舞いをポストに入れる賀谷優衣ちゃん(小方小1) ⑤積み木のタワー。慎重に慎重に…。



8/18
SUN



子どもも大人も「こども天国」

玖波公民館

f「らんらんカレッジサマースクール」の一つとして開催された「こども天国」は、市内の企業や団体が出店したイベントです。館内のロビーで、まずはピアノと歌でお出迎え。ホールに入ると、ネイルやメイクのおしゃれ体験、大竹和紙でのうちわ作り、ソーラートレーン作りなどバラエティに富んだブースが並びます。

「ちびっこオークションに挑戦」では、寄贈された遊休品を競り落とす体験をしました。落札する子どもたちも積極派、慎重派と個性が表れます。

宮島水族館からやって来たフンボルトペンギンのサヤカとモミジは人気者。2羽と触れ合えるコーナーには行列ができます。背中をなでた子どもは「つるつるして気持ちよかったです」とこっこり。終日にぎわう公民館でした。



f 8月26日 松ヶ原こども館で、「積み木であそぼう!」が開催され、32組91人の親子が参加しました。人が入れるほどの円筒形を2つ積み上げ、それをつないだトンネルを出入りする子どもたちは大はしゃぎ。親子で参加した杉岡妃莉ちゃん(7歳)は、自分の背よりも高く積み木を積んで、「楽しい」とこっこり。市役所の職場体験の一環として玖波中学校の生徒と一緒に取材をして、フェイスブックに投稿しました。



9月7日 木野の河川敷「水辺の楽校」で、「木野・川手地区市民グラウンドゴルフ大会」が開催されました。11チーム68人が参加し、8ホールを回りました。大人たちに交じってクラブをにぎるのは、児玉檜くん(大竹小6)。1年生のときから出場し、今回で6回目の参加。「今年の調子は?」と聞くと、「グーッ!」と、はにかみながら答えてくれます。初秋の緑のコースで一喜一憂する声が響いています。



f 9月7日 防鹿の「手すき紙の里」で、敬老の日におじいちゃん、おばあちゃんへの便りを出すため、手すき紙のはがき作りに挑戦しました。6組14人の親子などが参加。郵便局から正しい宛名の書き方などを習い、自分ですいたはがきにメッセージとイラスト入りの便りを仕上げました。広島市から参加した村岡里桜さん(小5)は、「山口と高知のおじいちゃん、おばあちゃんに送ります」。

f のついているものは、これ以外の写真も大竹市公式フェイスブックで見ることができます。

市民の幸福につながる公共交通に

率直な気持ちですが、利用者・関係者の皆さんの努力のおかげです。本当にありがとうございます。もう10年経つのかと感じています。

平成22年に、大竹市の公共交通システムが国土交通大臣賞を受賞したことが昨日のこのようです。「幹線と支線」という考え方が間違っていないかったという証明になりました。

10年前、この考え方を堅持し、「皆さんの知恵で乗り切れば堂々と大竹市の公共交通システムは存続し、こいこいバスは市の補助金をあまり受けなくても運行可能になると確信している」と当時の大臣の前でスピーチしました。どちらも会長として約束が果たせました。

現在こいこいバスは、収支率90%台を保っています。市民・利用者が持続可能な公共交通システムを受け入れてくれたからこそ10年続いてきたということです。

最近、高齢者の運転免許証返納が話題になり、ますます必要となる公共交通システムです。

会長として、利用者負担と行政負担のバランスを考え、最大限の市民の幸福につながる公共交通を模索していきます。



地域公共交通活性化協議会
会長 小田 光範さん

これからもこいこいバスのご利用
よろしくお願いいたします。

こいこいバスを育ててきた人々――

市民が中心となって考え、創り、育ててきた公共交通の10年間。中でもこいこいバスは、地域公共交通活性化協議会会長や幹線交通検討分科会の委員の方の地道な努力の積み重ねによって、市民の大切な移動手段として成長してきました。この方たちは、こいこいバスを生み、育ててきた人たちと言ってもいいでしょう。小田会長や幹線交通検討分科会の方に、これまで、そして今後さらなる成長をしていくための抱負を伺いました。



幹線交通検討分科会 委員に聞く

こいこいバスの運行10周年を迎え、利用者数が100万人を突破。幹線交通検討分科会委員の皆さんが、これまでの歩みを振り返りながら、バスへの思いを話してくれました。



幹線交通検討分科会
会長 岡野 俊彦さん

なくてはならない交通手段に

こいこいバス10周年、利用者数100万人突破にあたり委員の一人としてほっとしているところ。平成21年3月に市の公共交通の基本方針が示され、幹線交通検討分科会の委員に応募して以来、市の職員と委員で運営会議を重ねてきました。バスの運行、ルート、運行時間、バス停の設置、運賃の設定が最大のポイントでしたが、今日に至って全てが定着したように思います。高齢化が進む中、通院、買い物などになく

ぜひ一度 乗ってみてください



副会長 長光 美佐子さん

高齢化が進み、将来公共交通を必要とする方が多くなるとの思いで幹線交通検討分科会ができました。運行ルート、バス停、運賃などを、視察研修や会議を重ねて決定し、やっとこいこいバスが走るようになりました。こうして運行10周年、利用者数100万人突破と、たくさんの人に利用してもらいとてもうれしいです。

私がバスの乗車中に一番好きな風景は、小方港の近くから眺める工場の夜景がとてもきれいなところ。乗ったことが無い人もぜひ一度乗ってみてください。

市民のバスとしていつまでもこいこいバスをよろしくお願いいたします。

生活を豊かに潤すためにも必要



委員 井上 智都さん

こいこいバス運行10周年、利用者数100万人突破を順調に迎えることができ、大変おめでとうございます。

高齢化社会が急速に進んでいるため、今やバス運行は買い物や通院などの市民生活を豊かに潤すためにも、ますます必要になっているように見受けられます。

これからもこいこいバスが市内を走り続け、市民生活が活性化し、笑顔あふれる大竹市になるように見守っていききたいと思います。

高齢化社会でバスの役割重要に



委員 中田 吉之助さん

こいこいバスが10周年を迎え、利用者数が100万人を突破しまし

たことは、誠に意義深く心からお喜び申し上げます。

平成21年に運行開始し、玖波駅と大竹駅をつなぐ便がただだけ私たちの足となってくれたことでしょうか。

行政をはじめ、会長や委員の方々のご尽力のたまものだと思います。

高齢化社会が進むこれからの時代は、バスの役割がますます重要であり、安価で安心して乗車できる移動手段と言っても過言ではありません。

のために、われわれが長い人生の中で培ってきた知識や技能を生かし、関心を持って積極的に意見を述べ、さらに充実したこいこいバスになるように育てていきたいと思っています。

他路線のバスと連携し利用向上を



委員 田上 明人さん

こいこいバス運行10周年、利用者数100万人突破おめでとうございます。

こいこいバスと他の路線バスの連携により、こいこいバス利用者数のさらなる増加と、さらなる利用者満足の向上が図られることを祈っております。

公共交通機関を 必要とする方が増加



委員 水本 弘美さん

こいこいバス10周年・利用者数100万人突破！すごいことです。

高齢者の運転免許証返納により、マイカーの利用から公共交通を必要とされる方が増えているということだと思えます。分科会委員として、今後ますますこいこいバスが皆さんに愛され利用されることを願っています。

オレンジのバスは大竹のシンボル



委員 中村 照子さん

こいこいバス10周年、利用者数100万人突破の節目の年に幹線交通検討分科会の仲間に入れていただき、ありがとうございました。

当初、愛称募集の際、家族で「何がいかね？」と話合った記憶がありま

こいこいバス運行10周年を記念してケーブルテレビに出演した岡野会長(中央)と長光副会長(左)。市民の皆さんへの感謝を述べました。収録後「運行ルートやバス停の位置を決めるのに苦労しました」と、当時を振り返り感慨深げでした。「ちゅぴcomふれあいチャンネル」の「大竹市からのお知らせ」で10月7日から11日に放送予定です。



トップと現場一丸で 安全対策に取り組みます。

有限会社大竹タクシー 代表取締役 山口 英賢

市民が中心となって運行を開始したこいこいバスが運行10周年、利用者数100万人突破を迎えたこと、心よりお喜び申し上げます。

私どもは安全運輸マネジメントに基づき、経営トップから現場まで一丸となり、これからも安全対策に取り組んでまいります。

構築した安全管理体制はPDCAサイクルにより継続的に改善を進め、安全性の向上を図ります。公共交通を通じ住みよいまちづくりを目指していきます。

サービスや利便性の向上に努めます。

有限会社大竹交通 取締役 中島 美枝子

いつも多くの皆様にご利用いただきまして誠にありがとうございます。

運行10周年、利用者数100万人突破を迎えられたことに、関係者各位の努力、協力に感謝します。皆様の協力があって事故もなく安全運行できましたことに感謝しています。

今後も利用者の皆様が安心、安全にご利用できるような運行を心掛け、サービスおよび利便性の向上に努めていきます。

これからも応援してください！「公共交通」。

市民生活部自治振興課長 外谷 明洋

今、全国で地域公共交通について、さまざまな取り組みがされています。人口減に伴い利用者が減り、それが交通事業者の経営難につながることで運行路線の縮小や、最悪の場合撤退になってしまい、市民の移動手段がなくなってしまうからです。

利用者からすれば、便数が多ければ、料金も安ければもっと利用できるのにと考えられているかもしれませんが、市の補助だけが増え続けてしまいます。一方、交通事業者も、利用者が確保できれば、路線の維持に努めてくれるでしょう。

市では、交通手段を確保していくためにどうすればいいのか、利用者である市民、交通事業者、市の三者で、同じ方向に向いて努力することで、こいこいバスを運行してきました。

そのこいこいバスは、運行開始からこの10月26日で10周年を迎えました。利用者も順調に増え、今年で累計利用者数が100万人を突破しました。本当にありがとうございます。こいこいバスが、これからも市民の移動手段として愛されるよう、応援をよろしくお願いします。

修大生 「体験実践」 実習——

広報おたけを
取材編集—

取材
企画財政課
☎09 2 1 2 5

8月下旬から9月中旬にかけて、広島修道大学国際コミュニケーション学部1年生2人が、行政広報の仕事を実験しました。この学部のカリキュラムの一つで、行政の職場を実習するといふものです。

今回は、市の広報業務の中で、ホームページやフェイスブックの更新作業のほか、ケーブルテレビに出演して、市のイベント情報などのPRを体験しました。

広報紙作成業務では、こいこいバスについて、取材や記事の作成を行いました。事前に公共交通の担当者から幹線交通や支線交通の導入の経緯や概要を学び、実際に市役所までの行き帰りにこいこいバスに乗って、中の様子を観察したり、バスの乗降客にインタビューを試みたりしました。

これまで、地域公共交通活性化協議会の皆さんが議論を重ねてこられた上で、現在の運行形態があることは承知していますが、若い大学生が素直に感じたことを書いたものというところをご理解いただき、読んでいただければと思います。

使って知ろうこいこいバス—

広島修道大学国際コミュニケーション学部
国際政治学科1年 河田 悠雅

私は玖波駅から大竹市役所までの間を朝と夕方の時間帯に乗りました。乗ってくる人は年齢層が高い人が多いと聞いていたのですが、そのときの印象では、高校生やゆめタウンの従業員のような人も乗っていたので、幅広い年齢層の方が利用されているようでした。

また、駅とゆめタウンで降りる人が多く、あとは、病院くらいでしか

こいこいバスに 乗ってみた——

—大学生の乗車体験記—

Happy Bus Day



あまり人は降りていませんでした。乗る人も駅とゆめタウンが大半を占めているようでした。

他には、回数券を使っている人が多く、現金で払う人よりも多かったように見えます。

運転手の方は愛想が良く、乗るときにあいさつをしてくれました。

こいこいバスには良い面もありますが、もっと良くなる部分もあると思います。

そこで、私なりに4つの改善案を考えてみました。

1つ目は、可能であれば1日に数便でも駅からゆめタウンまでの往復バスを走らせる。

2つ目は、回数券を使う人が多いので、もう少し回数券を使う人がお得になるようなサービスを作る。

3つ目は、定期券の利用が少ないので値段をもう少し安くする。

4つ目は、免許を返納した人たちに毎年回数券を数千円単位で配る。

このような改善案を思いつきました。

こいこいバスは運行開始10年目になり、多くの人が利用していて良いところがたくさんある事を知りました。しかし、改善できるところもまだあるのではないのでしょうか。そうすれば、もっと利用者が増えてより良いバスになるのではないかと思います。

これからも長く続くバスに なるように——

広島修道大学国際コミュニケーション学部
地域行政学科1年 川畑 未宇

こいこいバスをたくさんの方が利用しているのが素晴らしいと感じました。

利用者も年々増えており、バスの運転手の方と利用者間で、朝のあいさつや行き先の話などのコミュニケーションも盛んで、市を明るくしてくれるバスです。

駅とゆめタウンの往復での利用がほとんどのようで、回数券を使っ

ている人が多い印象でした。定期券もありますが、使っている人は少ないので、定期券をもっと使いやすいように工夫することができるとはなにかと思いました。

例えば、区間に応じて割引のある定期券を発行することで、目的地との往復がしやすくなり、より利用しやすいバスになるのではないのでしょうか。

私の場合、家が駅から離れているので、バスは生活していくために絶対に必要です。そのバスが、明るくあいさつにあふれ、利用しやすいことが市民の皆さんの活気にもつながると思います。市の活気、利用者のためにも、こ

いこいバスがこの先もずっと長く続くことを市民が願っていると感じました。



バス停で

利用者に聞いてみた— 大学生が突撃インタビュー

職場が西医療センターの近くのなで、そこから買い物をするため乗って来ました。バイクに乗ることもありますが、暑い時期や寒い時期にバスはいいです。回数券を使っています。休日の朝7時の便が無いのが困ります。要望も出したことはあるのですが。

(ゆめタウン 立戸 70歳代女性)

西医療センターに行った帰りにバスに乗って、ここに昼食に来ました。月1回程度の利用です。夏の暑い時期バスは涼しいので乗ります。もう少し御園の先のほうまで走らせてくれたらいいのですが。

(ゆめタウン 小方 60歳代男性)

車がないので大竹駅まで電車であって、週2回ゆめタウンへの買い物と実家がその近くにあるので、回数券を使って乗っています。商業施設や公共施設など大竹の主要なところを回ってくれるのがいい。高齢者への割引があればいいと思います。

(ゆめタウン 岩国市 50歳代女性)

ゆ

めタウンから大竹駅まで乗りました。本当は西医療センターに行くつもりが、間違えて反対方向に乗ってしまいました。同じ時間帯に同じ色のバスが来るので、もっと行き先表示が分かりやすかったらいいと思います。週3回くらい回数券を使っています。病院に行く人が多い印象です。バスは車を持っている人が助かり便利。もう少し本数があるといいのですが。

(大竹駅 黒川 40歳代女性)

ご協力ありがとうございました。